第130号

# 第6分科会 月形町立札比内小学校



#### 1. 研究主題

「豊かな表現力を培い、楽しく学び合う子どもの育成~『確かな学力』を育む授業づくりを目指して~」と設定し、子ども一人ひとりの興味・関心を重視した上で、基礎的基本的な学力の定着、豊かな体験的活動を保証する学級経営・授業づくりに取り組むこととした。

#### 2. 研究内容

【視点1】では、自己表現する場の設定のしかた(研究仮説1と関連)自己表現する場・時間を的確に設定し、繰り返し指導していくことで、様々な教育活動において意識して取り組んだ。

【視点2】では、表現意欲を高める問題づくり、教材開発(研究仮説2と関連)とし、子どもをひきつける問題のあり方や思考・表現を助ける教材のあり方について明らかにした。

【視点3】では、問題解決への手立てのあり方(研究仮説3と関連)とし、基本的な学習過程や学び合う場のあり方について研修を深めた。

【視点4】では、学力定着への手立てのあり方(研究仮説4と関連)とし、効果的な授業展開について研修を深めた。

公開授業①=5·6年生算数科 5年生「三角形

## 3. 公開授業

や四角形の角」6年生「分数のかけ算」では、基本的な「わたり」「ずらし」の授業展開で公開した。授業の中では、学習リーダーを中心に進み、ホワイトボードを有効に活用し、一人ひとりの考えを自分なりに整理して発表することができていた。公開授業②=3・4年生算数科 3年生「かけ算のひっ算(1)」4年生「小数」では、同時展開を基本とした授業展開で公開した。この授業展開では、長所①基本的に指導段階に「ずらし」がないので、適宜、適切に学年別グループへの指導・助言や個別指導に多くの時間を配分できる。これらのことから、基本的な「わたり」「ずらし」における課題は、この同時展開を基本とした授業展開では解消されると

## 4. 研究協議

考え授業を行った。

授業者の反省の後、討議の柱をもとに論議が交わされた。授業に関しての質問では、両公開授業とも活用されたホワイトボードについての話題となったが、

他校での活用法の交流もなされ有意義な話し合いを 行うことができた。

その後、問題 (課題) 解決的学習について討議された。複式の子どもたちにとっては、どのような学習形態であっても、学習過程が明確であることで、間接指導時の進め方がスムーズとなるよう、反復指導を行うことが重要であると確認された。

# 第7分科会 美唄市立西美唄小学校



### 1. 研究主題

「自ら学ぶ喜びを知る児童の育成」~国語科の「話す・聞く」力を生かしたコミュニケーション能力の育成~とし、研究に取り組んだ。

### 2. 研究内容

仮説1 学び方、授業のパターンを確立し、「学び方」を身につけさせることで、主体的に学習に取り組む態度を育てることができる。

仮説 2 指導のねらいを明確にし、「話し方・聞き方・態度」を身につけさせることにより、課題を進んで解決しようとする子どもを育成することができる。

仮説3 国語科の「話す・聞く」力の基礎・基本で培った力を他教科・総合的な学習の時間・特別活動に生かしていくことで実践的なコミュニケーション能力を育てることができる。

の3点の仮説を立て、本年度は、仮説3を中心に研 究を進めてきた。

### 3. 公開授業

公開授業①=国語科, 1年「名刺で自己紹介をしよう」では,名刺を使って,自分のことをわかりやすく紹介し合うことを課題に学習を行った。

公開授業①=国語科,2年「聞き方名人になろう」では、「きき方名人」になるための留意点を意識させながら、対話を深めさせることを課題に取り組んだ。公開授業②=総合的な学習、3年「マガン調査隊」では、話すとき、聞くときの注意点に気をつけて発表することを目標に取り組んだ。

公開授業②=国語科, 4年「お笑い掲示板を作ろう」では、学習リーダーを中心に掲示板の内容についてグループで取り組むテーマを話し合った。

5年「読書発表会をしよう」では、紹介した本を聞いている人が読みたいと思うように、考えや思いを